

Mさんは二十五年前に結婚をしました。住居と職場が同一だったために仕事と家庭の切り替えが上手くできず、イライラすることが多くありました。ストレスを発散しようと外に出がちなMさんは、夫婦で落ち着いた時間を持つことをほとんどしません。妻の不満を感じつつも自分自身に余裕がなく、妻を労わめることは全く考えつきもしなかったのです。結婚当初から喧嘩が絶えず、すれ違いは日に日に大きくなりました。結婚から四年、「もう二人ではやっていけない」と感じたMさん、離婚届に判を押したのです。

それから十五年後、Mさんは倫理法人会に入会。倫理の学びに自分を変える何かを感じると、久々に行った飲食店で働いていた女性を倫理法人会に誘ったのです。倫理の行事と学びを通して少しずつ距離が縮まっていった二人は将来を約束。そしてMさんにとって二度目となる結婚生活がスタートしました。「夫婦の集い」が地元で催されると、二人で仲良く参加。そこで配布された「夫婦愛和の秘訣」は、Mさん夫婦の指針となったのです。

愛和の秘訣・夫の心得六カ条

- 一、妻の不足不満は捨てるべし
  - 二、心中をよく聴くべし
  - 三、妻を喜ばすべし
  - 四、家のことは妻に一任すべし
  - 五、自由に任せるべし
  - 六、仕事に向かって努力すべし
- 愛和の秘訣・妻の心得六カ条
- 一、うんと美しくなりなさい
  - 二、上手に甘えなさい
  - 三、なんでも相談しなさい
  - 四、なるべく起きて待ちなさい
  - 五、喧嘩の後は先に詫言いなさい



## 挨拶は金の鎖 夫婦の心を結び合う

え・栗木 映

六、いつも笑顔を贈りなさい

夫の心得を初めて目にしたMさんは、「以前の自分はすべて逆をしていた」と背筋が寒くなったと言います。「二度目の結婚生活では夫の心得六カ条を実践しよう」と決意し、具体的実践として《夫婦間の挨拶》《妻の話をよく聴く》を特に心がけました。

二度目の結婚でも、価値観の違いなどから会話が噛みあわずにイライラして、夫婦喧嘩が頻繁に起きました。併せて夫婦間の挨拶が徹底していなかったために仲直りのきっかけがつかめず、険悪な状態が長引くことが度々ありました。そうした中にも粘り強くあきらめずに妻への挨拶を継続したMさんは、しばらくすると夫婦喧嘩の翌朝にも挨拶がアツサリできるようなったのです。

喧嘩の翌朝、挨拶の実践によって嫌でも顔を合わせます。そこで互いに許すこと、謝ることを自然に心がけるようになり、モヤモヤした気持ちが半分くらいは落ち着くようになりました。夜には毎回スッキリして、翌朝には仲直り。喧嘩が長引かなくなりました。

Mさんは現在の幸せを次のように語ります。「仲違いが早期に修復できるので、夫婦喧嘩が安心してできます。その分、互いの不満や意見の食い違いを気軽に話せるので、今では妻の話を尊重して聴けるようになりました。初婚時は妻を喜ばせるなど全く考えもしなかった私ですが、現在はどうしたら妻が喜ぶかを折に触れて考えます。妻も応えてくれて夫婦仲は年々円満になり、その分、仕事への張りが生まりました」

「挨拶は心と心をつなぐ金の鎖」と言います。夫婦間でこそ挨拶を徹底して円満な家庭を築き、事業への活力としたいものです。